
令和4年度予算第一特別委員会質問要旨

○ 局別審査

令和4年2月28日

質問者（質問順）

- 1 萩原隆宏委員（立憲党）
- 2 斉藤伸一委員（公明党）
- 3 荒木由美子委員（共産党）
- 4 山田一誠委員（自民党）
- 5 東みちよ委員（自民党）
- 6 こがゆ康弘委員（民主フ）

教育委員会事務局

局 別 審 査

1 荻原隆宏委員（立憲党）

1 中学校給食について

- (1) ハマ弁開始から現在までの喫食率の推移及びその評価について伺いたい。
 - (2) 令和4年度の目標喫食率30%は、生徒だけの喫食率であるべきと考えるが、見解を伺いたい。
 - (3) さくらプログラム全校展開に期待する効果について伺いたい。
 - (4) 「より多くの中学生に給食を提供していく」という市長の意向を実現するロードマップについて伺いたい。
 - (5) デリバリー方式以外の方式の検討状況について伺いたい。
 - (6) 学校給食法の趣旨を踏まえ、教育委員会としても全員喫食を前提とした検討を進めるべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 学校給食法の趣旨や市民の思いを受け止めて、新たに設置する専任体制で全員喫食を実施するという前提に立って、より多くの生徒に給食を提供していくための前向きな検討を進めていくことを要望する。

2 学校給食の食材の安心・安全について

学校給食を安心・安全に提供するための食品原材料などの確認方法について伺いたい。

- (要望) 食材の安全は学校給食の根幹であるため、安心・安全な食材の確保にしっかりと取り組んでいくことを要望する。

3 みなとみらい本町小学校の暫定設置について

- (1) 今後の児童数の見込みについて伺いたい。
- (2) 10年を超えて校舎を使用することの安全性について伺いたい。
- (3) 10年後以降も継続して学校を運営していく必要があるのではないかと考えるが、見解を伺いたい。

- (4) みなとみらい21地区の価値の維持・向上のため、同地区に小学校があり続けることの重要性について伺いたい。
- (5) みなとみらい本町小学校を地域の公共施設として、もっと有効活用すべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) みなとみらい地区の更なる飛躍のため、関係局並びにYMMや地区の方々と連携し、みなとみらい本町小学校が暫定期間10年以降も存続できるように検討を進めていくことを要望する。

4 副学籍交流について

- (1) 副学籍交流の取組状況について伺いたい。
- (2) 様々な工夫を凝らし、副学籍交流を活発に行うべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (3) 副学籍交流を進めるにあたっての意気込みについて伺いたい。

5 認知・非認知能力調査研究及び新たな教育センターについて

- (1) 認知・非認知能力調査研究の問題意識と方向性について伺いたい。
- (2) 認知・非認知能力調査研究の具体的取組について伺いたい。
- (3) 新たな教育センターを整備する目的について伺いたい。
- (4) 新たな教育センターの整備スケジュールについて伺いたい。
- (5) データ活用を進めるにあたっては、保護者が不安にならないよう配慮すべきと考えるが、見解を伺いたい。

6 スクールソーシャルワーカー活用事業について

- (1) ユーススクールソーシャルワーカーの役割について伺いたい。
- (2) スクールソーシャルワーカーの人材育成の取組状況について伺いたい。
- (3) スクールソーシャルワーカーの人材育成の課題について伺いたい。
- (4) スクールソーシャルワーカー活用事業の今後について伺いたい。
- (要望) 今後も、スクールソーシャルワーカーの人材育成及び確保に向けてしっかりと取り組んでいくことを要望する。

2 齊藤伸一委員（公明党）

1 いじめの防止、早期解決に向けた取組について

- (1) SOSを出しにくい子どもの状況把握について伺いたい。
- (2) 子どもの気持ちに寄り添って支援する学校の取組体制について伺いたい。
- (3) いじめの未然防止と早期発見の取組の推進について伺いたい。

2 不登校児童生徒への支援について

- (1) アットホームスタディ事業の現時点の利用者数について伺いたい。
 - (2) アットホームスタディ事業を利用している児童生徒や学校からの声について伺いたい。
 - (3) アットホームスタディ事業の課題について伺いたい。
 - (4) 課題への対応について伺いたい。
- (要望) 子どもたちが誰一人として取り残されることがないように、一人一人の状況に合った学習保障を行っていただくことを要望する。

3 非認知能力調査研究の意義について

- (1) 非認知能力の概念について伺いたい。
 - (2) 非認知能力の研究成果の見通しについて伺いたい。
- (要望) 非認知能力の研究は中長期的な取組となるが、コロナ禍の学校教育において重要なものになっていくと考えるため、しっかりと取り組んでいただくことを要望する。

4 学校におけるICT支援について

- (1) 令和3年度の支援内容について伺いたい。
 - (2) 令和4年度の支援内容の拡充点について伺いたい。
- (要望) ICT支援員は教職員ではないため、業務内容に制限があることは一定程度理解できるが、学校からの声を聞き、学校への支援の対象範囲を拡大するよう検討していただくことを要望する。

5 教員の不足対策について

(1) 令和3年度の教員の欠員状況について伺いたい。

(意見) 教員が安心して産育休を取るためには、臨時的任用職員等による代替教員の確保だけではなく、質の高い正規教員を一人でも多く確保していくことが重要である。現在教壇に立って学校現場や地域で活躍している臨時的任用職員など、教職経験者は即戦力として期待できる。

(2) 教員採用試験の改善・工夫の取組について伺いたい。

6 日本語支援の更なる充実について

(1) 外国籍等児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒の在籍状況について伺いたい。

(2) 令和3年度に実施した日本語支援拠点施設に関するアンケートの結果について伺いたい。

(3) 日本語支援拠点施設の令和5年度以降の更なる増設の可能性について伺いたい。

7 学校における医療的ケアについて

(1) 小中学校における医療的ケアの取組状況について伺いたい。

(2) 小中学校における医療的ケアの取組を踏まえた今後の方向性について伺いたい。

(要望) 医療的ケアを必要とする子どもたちに必要なケアが行われるよう、学校と関係機関と連携して取り組んでいくことを要望する。

8 中学校給食について

(1) さくらプログラムの全校実施に向けた調整状況について伺いたい。

(2) 令和4年度に向けた広報の取組について伺いたい。

(3) 新たに設置する専任体制で、現在のデリバリー型給食の利用促進にも取り組むべきと考えるが、見解を伺いたい。

(要望) 栄養バランスの整った給食を、より多くの生徒に利用していただきながら、

現在のデリバリー型給食を一層発展させていくことが、横浜市が目指すべき中学校給食であると考えます。新たに設置される専任体制のもと、現在のデリバリー型給食の更なる発展にむけて取り組んでいくことを要望します。

(4) 給食実施2年目に向けた意気込みについて伺いたい。

9 教室の確保について

(1) 令和4年度に実施する不足教室対策について伺いたい。

(2) 放課後キッズクラブの活動場所の確保に向けた考え方について伺いたい。

10 今後の教育政策の推進について

現場の声を大切にしながら各施策を推進すべきと考えますが、見解を伺いたい。

3 荒木由美子 委員（共産党）

1 コロナ禍における学びの確保について

- (1) 令和4年1月以降の教職員の感染者数について伺いたい。
- (2) 令和4年1月以降の児童生徒の感染者数について伺いたい。
- (3) 学級閉鎖と学校閉鎖の基準、また直近の実態について伺いたい。
- (4) 各学校に対して、基準を変えたことの指導・指示を文書で行っているかについて伺いたい。
(意見) 基準を変えたことに伴う対応については、学校への丁寧な指導が必要である。
- (5) 家族等の濃厚接触者となり、出勤できなくなった教職員の状況について伺いたい。
- (6) 教職員が出勤できない場合の学校における指導体制について伺いたい。
- (7) 教員が足りなくなって休校せざるを得ない状況にある学校について把握しているか伺いたい。
- (8) 児童生徒が登校できない場合の学びの保障について伺いたい。
- (9) 特別支援学校の教職員が感染した場合の対応について伺いたい。
- (10) 感染拡大している中での学校から保護者への通知内容について伺いたい。
- (11) 自宅で何日も一人で過ごすことが困難な家庭への対応について伺いたい。
- (12) 学級閉鎖した学校名を明らかにするべきと考えるが、見解を伺いたい。
(要望) 学校長の判断で可能な場合には、学級閉鎖した学校名を明らかにするよう今後検討していくこと要望する。
- (13) 第6波で得られた教訓から、次に備えて何をしなければならないのかについて伺いたい。
(要望) 学校へ発出する文書は最低限にすること、正しい情報を伝えること、基準を頻繁に変えないことなど、現場の教職員からの意見を聞いて取り組んでいくことを要望する。

2 教職員の働き方改革について

- (1) 教職員の働き方改革の取組による時間外勤務の変化について伺いたい。
 - (2) 小学校の35人学級化に伴う採用人数の推移について、令和2年度、令和3年度、令和4年度の状況について伺いたい。
 - (3) 教職員定数が増加することによる、教員一人あたりの授業時数への影響について伺いたい。
 - (4) 令和4年度の非常勤講師による免許外授業解消時間の計画が、令和3年度と比べ111時間増えている理由について伺いたい。
 - (5) 教職員及び非常勤講師の今後の確保の見通しについて伺いたい。
 - (6) 産休・育休の代替の臨時的任用職員を、1か月程度の引継ぎ期間も含めて雇用することが働き方につながると考えるが、見解を伺いたい。
 - (7) 教員採用試験の応募を増やすため、働き方改革を推進し、実態を把握して早く退勤できるようにするべきと考えるが、見解を伺いたい。
 - (8) 教員が教材準備に時間を使えるための支援の取組状況について伺いたい。
 - (9) 職員室業務アシスタントの配置により、事務仕事はどのくらい減ったのか、データはあるのかについて伺いたい。
 - (10) 部活動指導員配置事業の現状と課題について伺いたい。
 - (11) 小学校の水泳授業を民間スイミングクラブに委託する目的について伺いたい。
 - (12) 民間スイミングクラブに移動する際の安全確保、移動時間や熱中症リスクへの配慮について伺いたい。
 - (13) 本市の少人数学級の考え方について伺いたい。
- (意見) 少人数学級への対応には教員の確保などの課題もあるが、少人数学級の実施に向け国へ要望していくべきである。

3 特別支援教育について

- (1) 令和4年度予算の拡充内容について伺いたい。
- (2) 北綱島特別支援学校が分校から本校に戻ることによる、教職員定数への影響について伺いたい。

- (3) 北綱島特別支援学校の当事者の声に耳を傾けない組織のあり様を是正すべき
と考えるが、見解を伺いたい。
- (4) 反省はないのか伺いたい。
- (5) 過ちを繰り返すべきでないと思うが、見解を伺いたい。
- (6) 児童生徒の推移を踏まえ、適宜、特別支援学校の設置を検討すべきと考える
が、見解を伺いたい。
- (7) 直近3か年の小・中学校の個別支援学級数と児童・生徒数、及び教員数の傾
向について伺いたい。
- (8) 個別支援学級を担当する教員に求められる専門性について伺いたい。

1 G I G A スクールについて

- (1) 1年間の総括について伺いたい。
 - (2) 教育用ネットワークの現在の状況について伺いたい。
 - (3) 教育用ネットワークの令和4年度高速化の内容について伺いたい。
 - (4) 学校における学習者用デジタル教科書の活用状況と今後の取組について伺いたい。
 - (5) 1人1台端末を活用した授業やオンライン授業の取組状況について伺いたい。
 - (6) 教員間のスキルの差を埋めるための対応策について伺いたい。
- (要望) 子どもの学習権を保障するためにも、学校間や教員間のICT知識の差によって生じる、授業の内容の差を解消しなければならない。そのためには、デジタル教育センターを設置するなど、統一的に取り組んでいくべきだと考える。さらに、ICT技術はハード面、ソフト面で専門性が高いため、サービスセンターの設置や、科目横断的な研究・開発、他の自治体も含めた好事例収集や共有をするようなワンストップセンターの設置を検討していただくことを要望する。

2 G I G A スクールにおけるITリテラシーの向上・いじめ防止について

- (1) いじめ防止のための1人1台端末の設定状況について伺いたい。
 - (2) 端末の持ち帰りに関する状況について伺いたい。
 - (3) フィルタリング等に係るポリシーについて伺いたい。
 - (4) 端末を活用した相談フォームを導入すべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 児童・生徒は、端末を活用した相談フォームがあることによって、いじめだけではなく、児童虐待や保護者と生徒間の問題や教員による暴力などについて、相談しやすい状況となり、これらの問題に対して抑止力が働くと考える。匿名性の確保などの課題はあるが、端末を活用した相談フォームを導入することについて、検討いただくことを要望する。

3 SDG s 達成の担い手育成推進事業について

- (1) 事業概要について伺いたい。
 - (2) 小・中学校における取組の実践例について伺いたい。
 - (3) 高校生が企業と連携するような事業についての教育的効果等について伺いたい。
 - (4) 子ども・若者が主体となったSDG s の取組推進への意気込みについて伺いたい。
- (要望) SDG s の推進に向けて、一層の取組をお願いしたい。

4 ゲーム障害・ネット依存啓発事業について

- (1) ゲーム障害・ネット依存に関する実態調査の結果に対する所感について伺いたい。
 - (2) ゲーム障害・ゲーム依存傾向の定義について伺いたい。
 - (3) 実態調査の結果が、ゲーム依存傾向に該当する児童生徒に対するいじめや差別のきっかけとならないよう配慮すべきと考えるが、見解を伺いたい。
 - (4) 子どもたちの多様性を認め、ゲームをやることを否定すべきではないと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 子どもたちの多様性の確保と健康のバランスに留意して、この事業を進めていくことを要望する。

5 小・中学校施設におけるエネルギーの地産・地消と学校PFIについて

- (1) 建替校における脱炭素化の進め方について伺いたい。
 - (2) 豊岡小の複合化に向けた考え方について伺いたい。
 - (3) 豊岡小建替えに向けたPFI等の整備手法の導入の考えについて伺いたい。
 - (4) 学校建替えを通じたまちづくりへの貢献の考えについて伺いたい。
- (要望) 学校建替えは地元の意見を十分聞きながら、一番良い形で進めていただくことを要望する。

6 義務教育学校の推進について

- (1) 義務教育学校を推進していく意義について伺いたい。
 - (2) 義務教育学校のエリアを含めた現在の状況について伺いたい。
 - (3) 今後の義務教育学校設置について見解を伺いたい。
- (要望) 義務教育学校を東部地区にも設置して欲しい。既存施設を十分利用した小中一貫校が設置できると良い。みなとみらい本町小学校は暫定設置となっているが、みなとみらい21地区は企業も多く立地にも恵まれており、複合化やPFIの整備手法を活用して設置するのも一案ではないかと考えるため、前向きに取り組んでいただくことを要望する。

7 図書館サービスの充実について

- (1) ICTを活用した図書館サービスの現状について伺いたい。
- (2) 図書館が提供する電子書籍などデジタル資料の子どもの読書や授業への活用について伺いたい。
- (3) 図書館情報システム構築の考え方について伺いたい。

1 ヤングケアラーについて

(1) ヤングケアラーに関する実態調査への協力について伺いたい。

(2) ヤングケアラーについて、教職員のより一層の理解促進を図るべきと考えるが、見解を伺いたい。

(要望) こども青少年局や健康福祉局など関係部署との連携を深め、ヤングケアラーとその家族の将来のための支援を進めていくことを要望する。

2 中学校給食について

(1) 現在の中学校給食の残食の状況について伺いたい。

(2) 給食化に伴い、ハマ弁と比較して国産比率がどの程度向上したかについて伺いたい。

(3) フードロス削減のための食育を一層充実させるべきと考えるが、見解を伺いたい。

(要望) 本市にとっての最適な中学校給食を目指し、中学校給食が子どもの成長を支え、生きた食育の教材となるよう、質の向上に努めていただくことを要望する。

3 コロナ禍における教育について

(1) コロナ禍における学力や体力の状況について伺いたい。

(2) 非認知能力に関する研究においては、対象となる児童生徒について追跡調査を行っていくべきと考えるが、見解を伺いたい。

(要望) 非認知能力に関する調査を新たに始めることについて評価しているが、同時に、効果検証も見据えて取り組んで欲しい。

4 「はまっ子未来カンパニープロジェクト」の推進について

(1) プロジェクトの意義について伺いたい。

(2) これまでの取組経過について伺いたい。

(3) 今後も、プロジェクトを更に推進していくべきと考えるが、見解を伺いたい。
(意見) 他の部局とも連携するとともに、企業も巻き込みながら、この取り組みが更に広がっていくことを期待する。

1 教職員への感染防止対策と支援について

- (1) 教職員の直近の感染状況について伺いたい。
- (2) 教職員が感染した場合の児童生徒への影響について伺いたい。
- (3) 今後の教職員への感染防止対策と支援策について伺いたい。
- (要望) 子どもたちの学びを保障するためにも、学校が安心できるサポートをしていくことが重要と考え、引き続き、教職員への感染防止対策に向けた支援をしていただくことを要望する。

2 就学奨励事業について

- (1) 直近の就学援助の実績について伺いたい。
- (2) 就学援助を受けていることを他者に知られないようにするための方策について伺いたい。
- (3) 本市における就学援助の認定基準及び援助の種類と支給額の他都市比較について伺いたい。
- (要望) 所得格差が広がる中、子どもの学びの不平等につながることを無いように、制度の維持と更なる向上を要望する。
- (4) 就学援助におけるシステム移行への具体的な対応策について伺いたい。
- (要望) 就学援助制度は、子どもの貧困問題の解消にもつながるものである。システム移行によって、申請の有無にかかわらず、必要な支援が届けられるよう制度が向上することを要望する。

3 放課後の学習支援について

- (1) 放課後学び場事業に参加した子どもたちに、どのような効果があるのかについて伺いたい。
- (2) 本事業の実施校を増やす上での課題について伺いたい。
- (要望) 本事業は、子どもたちの学習を支援する担い手の確保が難しいこと以外にも、学校の負担軽減などといった課題があるようだが、多くの学校が本事業を

実施できることを要望する。

(3) 令和4年度から行う新たな取組内容について伺いたい。

(意見) 本事業をより多くの子どもたちが利用し、また、参加した子どもたちが「自ら学びたい」と思えるような取組となることを期待する。

4 中学校給食について

(1) 令和3年度にさくらプログラムを実施した学校の喫食率の推移について伺いたい。

(2) 選択制の中学校給食の喫食率が低下してしまう原因をどのように分析し、令和4年度に生かしていくのかについて伺いたい。

(3) 現時点での中学校給食1食あたりの公費負担額と今後の推移予測について伺いたい。

(要望) 令和4年度は専任の検討チームが発足するため、全員喫食を基本として検討することを要望する。

(4) アレルギー対応の現在の考え方及び今後の方向性について伺いたい。

(要望) 利用する生徒にとって公平であり、利用しやすく、育ち盛りの中学生にとって栄養バランスを考えた質・量ともに満足できるものになることが大切だと考える。これらの点を踏まえ、真に横浜市にとってふさわしい中学校給食の実現につながるよう、検討することを要望する。